# 思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業への改善

# 岡山県立津山商業高等学校指導教諭 笠木 秀樹

## 1. はじめに

高等学校学習指導要領において、改善の大きな柱として示されているのが、「言語活動の充実」である。各教科・科目等における言語活動の位置付けとしては、言語活動そのものを行うことが目的ではなく、教科目標達成のための手段である。つまり、言語活動により授業を捉え直し、工夫を凝らし改善することが求められている。そこで本稿では、実学の視点に立って、生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくむ観点から、言語活動を取り入れた形の指導について、実践事例を紹介していきたい。

#### 2. 授業の改善への取り組み

生徒の現状を考えるとき,落ち着いてはいるが, 自分の考えを自信を持って表現することや自主的に 物事に取り組むことを苦手とする生徒が年々増えて いるように感じる。

そこで、知識の定着を図り、思考力、判断力、表現力をはぐくむ授業の取り組みとして、改善の柱に、言語活動を捉え、グループによる小集団づくりの要素を含めた実践を繰り返してきた。

#### 3. グループによる授業展開

グループによる学習は、学習効果を高める学習形態としてこれまでも数多くの研究がおこなわれ、実践的な力や協調性、コミュニケーション能力を向上させる効果がみられる。近年は「学び合い」を授業に導入しているケースも少なくない。また、企業では小集団を組み、職場や業務の改善に取り組んでいる点に注目したい。

グループによる学習形態は、①ある一つのテーマに対して自由な発想で意見を出し合い、意見交換を行うことができる。②当事者意識をもって問題解決に取り組むため、自立性が向上できる。③問題解決の課程における行動や振りかえりを行うことにより、

知識の定着に極めて有効であり、生徒自らが主体的に授業に参加するようになる。と考えられる。



写真1 グループによる学習の様子

## ビジネス経済応用「企業の社会的責任」1)

この教材は、アパレルメーカーで岡山市に本社を置く株式会社クロスカンパニーの社会貢献活動を取り上げ、会社案内(CSRレポート)を用いて、企業の社会的責任について、グループで考えさせるものであり、指導と評価の内容は次のとおりである。

ねらい・学習活動

評価規準・観 点・評価方法

- 【ねらい】企業活動が社会に及ぼす影響に責任を持つ ことの重要性について,具体的な事例を考 察し,理解を深める。
- ■新聞記事・経済同友会の CSR の必要性の統計資料により、社会的責任の重要性が高まっていることを確認させる。
- ・新聞記事・CSRの必要性の統計資料から必要な情報を読み取らせ、 気づいたことをワークシートにま とめさせる。
- ■「クロスカンパニー」の CM を見て、会社をイメージさせ、会社案内から、 CSR の内容をワークシートにまとめ、発表する。
- ・会社案内から、CSRの内容をワークシートにまとめさせ、内容について適宜発問し確認させる。

· CSR の内容をまとめたものを示し、再確認させる。

グループで話し合う。

- ■「社会にとって良いことが、会社にとって良いことである」という仮説について、「株式会社 クロスカンパニー」の事例から討論し、それを踏まえて自己の考えをワークシートにまとめる。
- ・「事例は何が良いことか」を消費 者、地域社会、従業員、株主の4 つの視点から考えさせる。
- ・机間指導によって各グループに対 して適宜助言する。
- ■会社は、「儲けること」が目的なら、「社会にとって良いことが、会社にとって良いことである」という仮説は相反することではないかと問題提起について、討論し、その内容をグループごとに発表する。その後、自分の考えをワークシートにまとめる。
- ・企業活動が社会に及ぼす影響が大きいことに注目させて、討論させ、まとめさせる。
- ・話し合った内容をグループごとに 発表させ、発表内容を P.F. ドラ ッカーの理論等により補足しまと める。
- ■討論を踏まえて、企業の社会的責任 とは何か、なぜ重要かについて、キ ーワードを用いて、まとめ、発表す る。
- ・次のキーワードを示し、キーワードとA3用紙を配布し、机上でまとめさせる。

環境, 社会貢献, 企業市民, 社会的責任, 利害関係者

- ■企業の社会的責任について確認する。
- ・近江商人の「三方よし」の理念を 紹介し、企業の社会的責任の現代 的意義を示すことでまとめとする。

#### 4. 新聞を教材とした授業展開

学習指導要領によれば、「ビジネス経済」の指導に当たっては、「経済事象を主体的に考察できるようにすることが大切である。」として、新聞や放送、インターネットなどを活用することによって日ごろから経済に興味・関心をもたせ、経済社会の動向に注目させるとしている。

(ワークシー

卜)

そこで、速報性、多様性、記録性など新聞がもつ情報の特性を授業に活用することで、学習の視野を広げ、授業改善の新たな視点がえられると考えられる。



写真2 討論を主とする授業の様子

## ビジネス経済

この教材は、新聞記事を教材として身近な話題から経済を学ぶものであり、新聞記事等によって経済社会の動向に着目させ、経済事象を主体的に、理解し深化させる教材であり、指導と評価の内容は次のとおりである。

考えをまとめるためのワークシート(資料1)や 教室の配置にも写真2のように討論しやすい工夫を している。

ねらい・学習活動

評価規準・観 点・評価方法

- 【ねらい】新聞により,経済社会の動向に着目し,具体的な経済事象について討論し,経済理論と関連付けて,理解を深める。
- ■新聞に関連する写真を見て, 気づいたことを発表する。
  - ・新聞に関連する写真を示し、本時への興味・関心を高めさせる。
- ■新聞記事を読み、段落ごとにポイントに下線を引く。その中から5つのポイントを選び、ワークシート(資料1)に記入する。
- ・新聞記事を段落ごとに音読させ、 ポイントを発表させ、下線を引か せる。
- ・ポイントの中から重要と思われる 5点を選ばせ,ワークシートに記 入させ,内容の理解を促す。
- ■新聞記事と経済理論を関連付けて確認する。
- ・経済理論と関連付けて説明し、理解を深め、討論の活性化につなげる。

与えられたテーマによって考えをまと ・ 与えられたテめ発表する。 ・ ーマについて

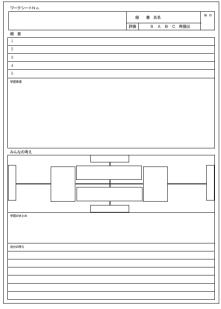
- ■ポジショニングマップにより分けられた4つのポジションに自己の考えを付箋で示す。
- ■自己の考えを発表するとともに,他 のポジションの考えと比べて全員で 討論する。
- ・新聞記事よりテーマを与え、ポジ ショニングマップを説明する。
- ・自己の考えを付箋で黒板に明示できていない生徒には,直接説明して理解を促進させる。
- ・自分の考えを他者との比較をとお して発表させ、板書する。
- ・円滑に進行できるよう生徒の意見 に対して、適宜、意見や補足的な 解説などを加える。
- ■討論を振りかえり、与えられたテーマについて考えをワークシートにまとめるとともに、経済の仕組みや概念についてまとめる。
- ・討論を振りかえり, 自己の考えを ワークシートにまとめさせる。
- ・机間指導しながら、簡単な補足情報を追加して、まとめを促進させる。

【思考·判断· 表現】

ている。

(ワークシート)

【知識・理解】 (ワークシー ト)



資料1 新聞活用ワークシート

## 5. ケース教材による授業展開

ケース教材による学習は、企業の事例をケースと

して取り扱うので、実践的に学習するなかで、課題の発見や適切な行動が期待でき、討論の中で生徒の能力を引き出し、多様な視点を学ぶことができる。つまり、学習指導要領に示されている具体的なビジネスと結びついた知識、ビジネスの諸活動に取り組む創造的な能力と実践的な態度が育成されると考えられる。

## 商品開発「商品開発の方針とテーマの決定」

この教材は、ポテトチップスの新製品の開発事例を使ってヒットした製品について取り上げた自作のケース教材(資料2)を活用して、既存の商品と新商品を考察し、示された課題である新製品のターゲット層を討論して、決定するという製品開発の方針決定について考えさせるものであり、指導と評価の内容は次のとおりである。



資料2 自作のケース教材

ねらい・学習活動

評価規準・観 点・評価方法

- 【ねらい】商品のライフサイクルや競争上の位置付け を明確にして基本的な商品開発の方針を決 定することについて,具体的な事例を考察 し、提案する能力を育てる。
- ■ポテトチップスに関心を持ち,製品 を挙げる。
  - ・ポテトチップスを示し、興味を 喚起して、製品を挙げさせる。
  - ・ポテトチップスの製品とともに, 「カルビーの成長の歴史」によっ て, 商品のライフサイクルや競 争上の位置付けをデータで示 し、明確にし関心を喚起する。

グループで話し合う。

- ■商品開発の方針決定に関するケース 教材を読み、既存の商品と新商品を 比較・検討し、新製品のセールスポイントを確認する。その資料をもと に商品開発の方針について、新商品 のターゲット層に着目してグループ で討議し、それを踏まえて自己の考 えをワークシートにまとめる。
- ・ケース教材「新規参入の挑戦者」 を説明し、課題を確認させる。
- ・従来品との比較をとおして、新製品のセールスポイントを確認し、 市場への影響をまとめさせる。なお、商品が入手できれば、準備し 実際に試食することで実感させる。
- ・製品要素の観点から、最適なター ゲット層について討論させ、ワー クシートにまとめさせる。
- ・必要に応じて、商品状況等を示し て論議を深めさせる。
- ■グループごとに討論した最適なター ゲット層を発表するとともに、3者 の立場に注目して、さらに全体で討 論し、論議を深める。
- ・3者それぞれの立場から、比較し、最適なターゲット層を絞ることができるように討論を促す。
- ■話し合いの内容をまとめ、最適なターゲット層を絞り込み、自己の考えをワークシートにまとめる。

6. 成果と課題

調査の結果、思考力・判断力・表現力をはぐくむ 授業は、有意に向上していることを示している。学 習後は学習前に比べて、グループによる学習集団で は、「発表する」、「話し合う」、「意見を述べる」、 「論理的に考える」の4項目に有意な差がみられた。 また、新聞による学習集団では、「意見を聞く」、 「意見を述べる」、「話し合う」、「探究する」、「まと める」、「討論する」の6項目が、そして、ケース教 材による学習集団では、「討論する」、「意見を聞く」、 「論理的に考える」、「まとめる」、「意見を聞く」、 「論理的に考える」、「まとめる」、「意見を述べる」、 「探究する」の6項目に有意な差がみられた。<sup>2)</sup>

このことは、生徒自身が「自分の考えをまとめ述べることができた。」という満足感や自信をもたらすと同時に「論理的に考える」、「探究する」という思考力の育成につながった。また、主体的な関わりや意欲の向上という観点からも効果的であったと考えられる。

これらの取り組みは 決して新しい取り組みばか 商品開発の方 りではないということである。ただ、思考力・判断 針を決定する 力・表現力をはぐくむ観点から、われわれ教師が ために思考を 「考える力を養うための言語活動である」と常に意 深め、ビジネ スの諸活動に 識することが課題であると考えられる。意識するこ 携わる者とし とによって、自分の考えをワークシートに書かせる て,新商品の ターゲットを ような活動を付け加えたり、授業で簡単な問いを投 適切に判断 げかけ答えさせたりするなど発問の仕方を工夫する し. 表現する だけでも言語活動は取り入れられる。それによって. 創造的な能力 を身に付けて 教える内容が同じでも、おのずと発問の仕方や教材 いる。 の作り方が変わり、授業の質も向上すると思われる。 【思考・判断・ 表現】

## 7. まとめとして

(ワークシー

卜)

「答えは一つじゃない」と生徒に問いかける。社会に出て大きな問題に直面したとき、そこには正解はなく、多面的な観点から問題を眺め様々な情報や証拠を用いた高度な判断をして、一番効率のいい最適な答えを出す必要があるからだ。

思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業によって、 生徒が自ら考え、人にわかるように説明し、生徒同 士で考えを共有し、深め合うことで、教科商業の内 容に対する理解がさらに深まり、興味・関心が高め られる。その結果、教科目標に近づくと考えられる。 そして、なにより、生徒にどのような力を身に付け させたいかが明確になり、より焦点を絞った指導が 可能になるからだ。授業の改善はわれわれ教師自身 の「意識」を変えることからはじまる。

#### 参考文献

- · 文部科学省(2010)「高等学校学習指導要領解説 商業編」
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター (2012)「評価規 準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等 学校 専門科目商業)」

#### 注

- 1) 科目名, 学習内容, 評価規準等は, 旧学習指導要領により実施したものを, 新学習指導要領に準じて作成したものである。
- 2)「学習について身に付いたもの」(本校昨年度調査・自由 記述)より、グルーピングした上位10項目(読む、まと める、発表する、話し合う、討論する、批評する、意見 を書く、意見を述べる、探究する、論理的に考える、伝 える)を選出。10項目について、3つの学習集団(グル ープによる学習集団、新聞による学習集団、ケース教材 による学習集団)を対象に、本年度、学習前(4月)と 学習後(6月末)に調査を行った。なお、文中の項目名 の表記は、有意差のある項目について、その結果が高い 率を示す順に記述している。